

ねあらい がくえんの ワークショップ シリーズ

WORKSHOP SERIES

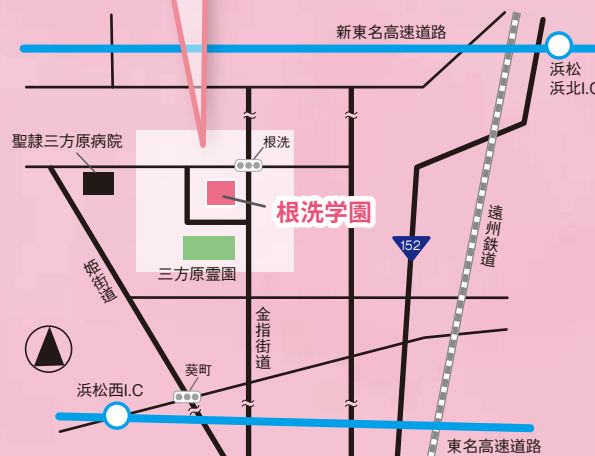
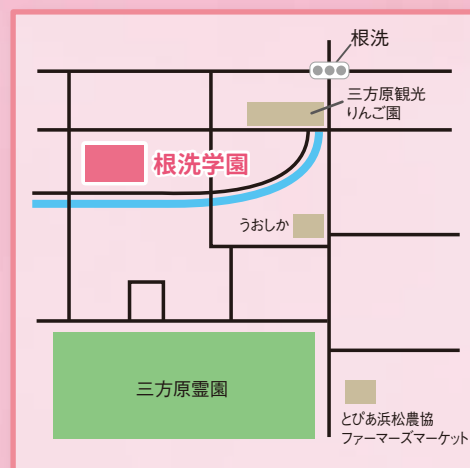
全6回

〈対象 高校生以上〉

やったことないをやってみる

主催：社会福祉法人ひかりの園（浜松市根洗学園）

2020年オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会 モデルプログラム



住所：静岡県浜松市北区根洗町 667-1

ワークショップお申し込み

●申し込み(先着順)

申し込み方法

メール、またはFAXにて
以下の項目を記入してお申し込みください。

- ・氏名
- ・連絡先
(電話番号、メールアドレス、あればFAX番号)
- ・所属
- ・希望する講座名

●メール nearai@ruby.ocn.ne.jp

●FAX 053-436-9326

お問い合わせ先

浜松市根洗学園

✉ nearai@ruby.ocn.ne.jp (担当: 松本)



参加費

¥500/回

全6回通し参加
¥2,500

やったことないをやってみる

何に気付き、どのように意味づけるのか、 思い込みからの解放

福祉の業界には多くの専門知があり、多くの研修プログラムがあります。一方で人と人の関係が密になる福祉現場において、他分野が培ってきた知識や技にさらなるヒントが見つかることもあります。

私たちはアーティストや外部の専門家との取り組みを長年重ねてきた中から、そんな他分野との出会いの豊かさを知りました。そうした体験の一部を提供しようとするワークショップシリーズを企画しました。

興味を持たれた福祉・保育・教育の現場のみなさん、そして仕事にはしていないけれど関心のある方、もちろん保護者の方々、どなたでも参加していただけますので、お気軽にご参加ください。

10/14
〈金〉

A

18:30 ~ 20:30
定員 30 名

持ち物：動きやすい服装

異なるレイヤーへのダイブ！

見たり、触れたり、聞いたりしている普段なにげなくしている行動を見つめ直してみるワークを行います。角度を変えてみたり、しつこく触ったり、じっくり聞いてみることを通じて、そこにある物や関係や時間の違った側面に飛び込んでみます。日頃当たり前のようにふれている物事をとらえ直してみる思考を育むワークショップです。

砂連尾理

振付家／ダンサー



振付家、ダンサー。1991年寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団ティクバとの「Thikwa+Junkan Project」、舞鶴の高齢者との「とつとつダンス」、音楽家・野村誠との「家から生まれたダンス」、濱口竜介監督映画「不気味なものの肌に触れる」への振付・出演等。また、「とつとつダンス」創作時の言葉が鷺田清一「折々のことば」/朝日新聞連載で紹介される。立命館大学、神戸女学院大学、京都精華大学非常勤講師。

11/18
〈金〉

B

18:30 ~ 20:30
定員 30 名

持ち物：カメラ(スマートフォンでも可)

いつもの写真にひと味加えるために

幼稚園や福祉の現場では業務の中で写真を撮ることがあるかと思います。この回では、カメラや写真を撮る際の基本的な技術を実際に撮影をしながら学びます。主な内容として「カメラとデータの基本的な扱い」「被写体との距離、アングル、背景との関係など構図に関すること」「シャッターチャンスを逃さないためのtips」など。

すずや

すずやカメラ店主



大阪写真専門学校在学中に、撮影することや撮られた写真と、社会や人々・子供たちとの関係についての模索を始める。東京での写真屋修行中から、楽しむための写真、仲良くなる写真、自分のための写真、みんなに伝える写真。そのための道具としてのカメラ、というスタンスで写真講座や初心者向けのカメラ教室などを多数開催。袋井市で写真店を経営。出張撮影や写真アルバム加工など。袋井市出身。

11/25
〈金〉

C

18:30 ~ 20:30
定員 30 名

音のコミュニケーション

体や物を使って音を出して遊びます。

音を聞く／発するワークを通じてコミュニケーションとしての音について、感じて考えましょう。楽器などの音楽経験はいっさい不要です。

片岡祐介

音楽家



子どもの頃から作曲や即興演奏に興味を持ち、木琴やピアノの演奏を自己流で始め、東京音楽大学で打楽器を学ぶ。映画やコマーシャル音楽での経験を積んだ後、97年から2000年まで、岐阜県音楽療法研究所にて研究員として勤務し、障害児者との演奏共演を多数行う。マリンバのソロコンサートなど、ジャンルに拘らない演奏活動の他、音楽療法士のための実践的な講座や、幼児から高齢者まで幅広い人を対象に即興演奏のワークショップも行っている。おとぼけキャラで、おとり好き。

12/16
〈金〉

D

18:30 ~ 20:30
定員 40 名

高齢者施設の中の哲学・ダンス・文化人類学

2010年に上演されたダンス公演をきっかけとして、施設にダンサー、哲学者、文化人類学者を招いて始まったワークショップや勉強会は合計100回を越え、現在も続いています。その内容や経緯やなれを、施設の成り立ちや業務の紹介などと一緒に話していきます。高齢者福祉と異分野の接点を探りつつ、こうした取り組みにつなげるヒントを得られる機会かもしれません。

淡路由紀子

特別養護老人ホーム
グレイスヴィルまいづる施設長



1963年生まれ。元舞鶴市職員。03年に社会福祉法人の設立メンバーとなり、05年4月に京都府北部初、全室個室ユニット型の特別養護老人ホームグレイスヴィルまいづるの施設長に就任。舞鶴市とNPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴によるアートプロジェクト「まいづるRB」にグレイスの入居者が参加し10年3月に舞鶴赤れんが倉庫でダンス公演「とつとつダンス」が行われたことをきっかけに、グレイスヴィルまいづるで「シリーズとつとつ」(ダンスワークショップ、哲学勉強会、文化人類学カフェ)を主催、現在も進行中。

1/27
〈金〉

E

18:30 ~ 20:30
定員 30 名

シアターゲーム

俳優のトレーニングに使われるシアターゲームと呼ばれる、演劇スキルをゲーム感覚でやしなうワークを行います。注意力や観察やコミュニケーションなど日常生活や業務の中で使っている要素に、ゲームを通じてあらためて意識を向けてみることで生まれる変化を楽しみながら体感します。

柏木陽

演劇百貨店代表／演劇家



演劇百貨店代表／演劇家。劇作家・演出家の如月小春とともに活動し、アジア女性演劇会議事務局、兵庫県立こどもの館の野外移動劇ワークショップなど新たな演劇の可能性を探る現場に関わる。03年、特定非営利活動法人演劇百貨店を設立し、代表理事に就任。現在もワークショップの進行役として、全国各地の劇場・児童館・美術館・学校で、子どもたちと独自の演劇空間を作り出している。青山学院女子短期大学、大月短期大学、和光大学で非常勤講師を務める。今年度「演劇教育賞」(日本演劇教育連盟)を受賞。

2/3
〈金〉

F

18:30 ~ 20:30
定員 40 名

役割や居場所について

自閉症やLD(学習障害)の子どもたちと演劇をつくったり、地域の人たちで組織された演劇公演の裏方を認知症や寝たきりのお年寄りが担ったり、作業療法士として周囲の環境に対応しながら行ってこられた話から、役割や居場所の大切さを考えます。

川口淳一

作業療法士、結城病院
リハビリテーション部作業療法科科长



作業療法士。長崎大学医療技術短期大学卒。その後長崎市内の病院に勤務後、介護老人保健施設ふらの(北海道)へ赴任。副施設長として勤務する。2008年より結城病院(茨城県)に赴任し、急性期から地域リハビリテーションまでの作業療法に従事。現在、結城病院リハビリテーション部作業療法科科长。学生時代より演劇を用いた学習障害児のコミュニケーション活動やワークショップ、高齢者施設での演劇裏方活動など実施。著書に、「演劇リハビリテーションの模索」(ダブルフェイス 2000)、「リハビリテーションの不思議～聴こえてくる高齢者のこえ～」(青海社 2006)がある。